令和6年度第2回京丹波町地域包括ケア推進委員会及び第2回京丹波町地域密着型サービス運営委員会

日時：令和７年２月２８日（金）
午後１時３０分～午後３時１０分
場所：京丹波町役場　２階　大会議室

出席者：片山委員長、津田副委員長、荒牧委員、由良委員、寺谷委員、山田委員、村上委員、大西委員、瀧村委員、堀委員、桐野委員、津中委員（１２人）

欠席者：谷口委員、山口委員、松本委員、谷山委員、越川委員（５人）

事務局：健康福祉部：木南部長
健康福祉部医療政策課：中野課長
健康福祉部福祉支援課：原澤課長、西村補佐、並河補佐、堀補佐、中川主任
（福）京丹波町社会福祉協議会　地域福祉課：山本課長（京丹波町生活支援コーディネーター）

１　開会（原澤課長の司会により進行）

２　委員長あいさつ（片山委員長）

皆様ご苦労さまです。寒い日が続いていましたが、暖かくなってきました。寒暖が激しいため体調にはご留意いただきたいと思います。本日は２つの委員会が開催されますので、委員の皆様には様々なご意見を頂ければと思います。お世話になりますがよろしくお願いします。

３　協議事項

（１）第２回京丹波町地域包括ケア推進委員会

①第９期介護保険事業計画等進捗状況の報告等について　資料１

・介護保険サービス事業の進捗状況の報告及び評価について

・地域包括ケア「見える化」システム等による地域分析の報告について

（説明：事務局（西村補佐）資料１説明）

委　　員：居住系サービスの特定施設入居者生活介護について、サ高住以外に何があるか。
事 務 局：サービス付き高齢者向け住宅のほかに、有料老人ホーム等で指定を受けられている。

②京丹波町成年後見支援センターについて　資料２

（説明：事務局（堀補佐）資料２説明）

委 員 長：相談いただく窓口は、役場の成年後見支援センターと社会福祉協議会にもあるので、心配なケースについては、どちらかに相談いただいたらよいかと思う。

（２）第１回京丹波町地域密着型サービス運営委員会
地域密着型サービスの新規指定（予定）の報告について　資料３
（説明：事務局（西村補佐）資料３説明）
・小規模多機能型居宅介護の開設に向けた現時点での情報提供について

質疑等なし

委 員 長：全体のなかでご質問等はありますか。

委　　員：１０３万円の壁ということがいわれているが、働き控えをされることで、ヘルパー不足の影響があるのではないか。特に年末に向けて、時間の調整をされることが多いと思われるが、事業所は苦労されているのではないか。働く人がないといわれているが、働きにくくなっている現実がある。

副委員長：実際に働き控えがでてきている。１０３万円の壁のこともあるが、介護職員の処遇を上げるための処遇改善加算や最低賃金の上昇があることから、1回の報酬は上がっていくなかで、抑えなければならないという現状がある。事業所としては、報酬を払いたいが働いてもらえないこととなり、運営は厳しい状況である。

委　　員：同じ状況であり、非常勤の職員が時間を抑えられるため、常勤のヘルパーでカバーしている。昨日、ケアマネジャーの更新研修を受けたなかで、地域課題としてヘルパー不足の話をしていたが、市内では若い方がヘルパー事業所を立ち上げており、事業所は多いようである。京丹波町や南丹市等の中山間地域では人材が少なく、ヘルパーの確保については大きな課題になっていると思う。2040 年問題がでてきたなかで、この地域だけで行っていくことは難しい。施設では外国人スタッフも従事されて成り立っているが、ヘルパーについても海外からの人材を受け入れていけるシステムにならないといけない。車の運転など移動の面での課題もあるが、このままでは成り立っていかないのではないかという話であった。

委 員 長：最近の傾向としては、世界的にみて日本の給料が低く、東南アジアの方がよくなってきているようである。インドでは人口が多い地区があり、日本の企業が入り会社を創設したり、インドから日本にきてもらうといったこともしていると国がいっていた。こういった時代背景からいうと、京丹波町だけでということが難しくなって、町内にある施設やサービスが統合していかなければならない時期もくるのではないかと思う。

委　　員：外国からきていただくことに反対ではないが、宗教上の問題もあり将来に影響を残すものもあると思う。全ての宗教的な行いを受け入れていくことは難しく、一人ひとりの背景を十分理解したうえで、受け入れる体制を整えていく必要があると思う。土葬等のことで日本国内でも問題になっている自治体があるが、町内のことだけでなく、日本で起こっている情報は知っておく必要があると思う。

委 員 長：日本だけでなく、外国においてもお互いが理解しながら、国づくりをしていかなければならない。多様化している時代になっているため、難しいことがたくさんある。福祉でも２０年で大きく変化している。

委　　員：京丹波あんしんアプリをスクロールしていくと、SDGs がでてくる。聞く言葉ではあるが、内容が理解できない。高齢者が多い自治体で理解できているのかと思うがどうか。

事 務 局：SDGs 活動プラットフォームという事業のことかと思われるが、SDGs は、持続可能な開発目標ということで、内容的には、担当外であるが、交流人口の拡大などの取組みを町で行っており、各団体等が取り組まれる関連の事業へ、町内外の方に参加いただくというような取組の一環かという理解をしている。SDGs と事業の関係といわれると分かりにくさはあるのかと個人的には感じている。

委　　員：具体的にやっている内容のイメージがわかない。せめて日本語で書いていただくなど、分かりやすくしてほしいという要望である。

事 務 局：事業の目的等、分かりやすく説明書きがいれられないかという、ご意見があったということをお伝えしたいと思う。

近年は、いろんな情報がすごい速度で進んでおり、いろんな言葉が飛び交い、言葉だけでなく世の中の変化が非常に激しいため、いつまでもこれまでどおりということにはならないのかと感じる。少しずつ慣れていく必要があるかと、個人的に思うところはある。

委　　員：資料にもあったが、丹波地区の施設サービスの利用者が減少している状況である。申請者が減っていることから待機者が減っている。当施設において、１１月から１月にかけては、インフルエンザによる入院患者が最大１０名程あり、空床が目立ち経営が難しかった。職員の確保は努力しているが厳しく、介護職員も厳しいが、特にケアマネジャーの確保が難しい。なんでもしなくてはいけないという、良くないイメージがあるのか、資格取得の声かけを行うも、断られることがある。

３月から、また電気代やガス代が上がり、ガソリン代も徐々に上がっている。食材も上がっており、特にお米が上がるなど、物価高騰に追いつけず厳しい状況である。

委 員 長：福祉関係の施設は、利益を上げることができないため、経営は本当に難しいと思う。施設のサービスだけでなく居宅のサービスについても、行政も含め将来的に考えていく必要があるかと思う。

（４）その他

・令和６年度分委員報償費の支払いについて

・来年度の委員選出及び委員会等の開催予定について

４　閉会　（津田副委員長あいさつ）

本日は、今年度最後の委員会で、またこの任期での委員では最後ということでした。会議では京丹波町の現状について確認し、意見交換を行うなかで、運営側の課題等についても聞かせてもらえたかと思う。いろんな情報がすごいスピードで変わっていく状況と一緒に、それぞれのサービスを受けられる住民の皆様、またそれぞれの健康状況も大きく変わってきている。家族で支える介護力や生活のスタイルも大きく変わっており、事業所は敏感に反応していく必要があると感じている。それぞれの事業所は、提供されたデータを元に今後の戦略をたてていかなければならず、本日の資料は重要であったと思っている。こういった資料を見せていただきながら、京丹波町のサービスの質が落ちないように、また必要な方に必要なサービスが届けられるよう、皆さんと協力し、それぞれの立場の意見を聞かせていただきながら進めていく必要があると感じている。次期委員さんについても、そういった部分を大切にしていただきながらお世話になれたらと思う。

本日は誠にありがとうございました。